

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 7 月 10 日

評価対象事業	文観 - 13	東アジア文化都市事業	☐ 法定受託事務
所管課	文化観光部 国際交流課		評価者 国際交流課長 丸山 健太郎
一般	会計	款 10 項 05 目 50	
総合計画上の位置付け	分野名	文化	施策の方針名 2-（2）-①文化活動の支援・推進

1 事業の目的

対象	市民等	意図	東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図る。
効果	東アジアの国々とともに発展してきた鎌倉のまちの成り立ちや今に引き継ぐ多様な生活文化を再認識・共有することで郷土愛を育むとともに、鎌倉の魅力と価値を広く発信する。		

2 事業工程と運営資源配分

■ 単年度事業 ☐ 終期のある事業（事業終了予定年度： 年度） ☐ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	東アジア文化都市2025鎌倉市実行委員会の運営、中国・韓国の開催都市との交流	令和7年度をもって事業終了	
予算額（千円）	181,079		
国県支出金	70,000		
地方債			
その他			
一般財源	111,079	0	0
当初人員配置数	7.0	0.0	0.0
人件費（千円）	52,603	0	0
事業実績	東アジア文化都市2025鎌倉市実行委員会の運営、中国・韓国の開催都市との交流		
決算額（千円）	172,509		
国県支出金	70,000		
地方債			
その他			
一般財源	102,509	0	0
人員配置実績数	9.0	0.0	0.0
人件費（千円）	67,645	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名	交流都市数	都市	0	⇒	3		
活1	実績につながる活動	東アジア文化都市と交流を図った。				-		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	文化庁から2025年の東アジア文化都市に選定を受けたことによる。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	東アジア文化都市事業参加都市（中国・韓国の3都市）の交流事業に市民団体等と共に訪問し、交流するとともに、鎌倉市で実施した各種交流事業による交流を実施することで、都市間の継続的かつ親密な友好関係を構築できた。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	都市間交流の実施	件	0	↗	16			1
成2	都市間交流市民の参加人数	人	0	↗	188			1
成3								

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	国レベルの政治的関係性による。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	中国・韓国の各都市との伝統芸能（能、獅子舞など）や伝統工芸（鎌倉彫）を通じた交流や青少年による交流をする機会を得ることができ、市民間交流を実現させることができた。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	3都市との交流事業を実施することにより、友好親善を深めることができ、都市間交流形成の礎に資するものとなった。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☒ 十分にしている	☐ 概ね出ている	☐ 出していない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
		関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性	公平性	受益者負担	☐ 導入済	☐ 導入予定	☒ 導入できない
		評価実施年度の方向性 ⇒	評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☐ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☒ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
	予算規模の方向性	☐ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☒ 予算規模を縮小済	⇒	☐ ① 予算規模は現状維持とする ☐ ② 予算規模は拡大する ☒ ③ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評	東アジア文化都市交流事業を１年間実施することで、国内外へ鎌倉の伝統芸能を伝える機会となり、市民間の多くの交流と相互理解が生まれた。特に若い世代の国際理解の進展と鎌倉の魅力と価値の発信することにつながるものとなった。			
		上位施策への寄与度 A			

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方		当市の相対的な位置付けを他市との比較値によって測る定量評価には、事業の性質上、馴染まないと考える。							